

H30年度 建設界の担い手確保・育成推進協議会【第一回石川県部会】開催報告

- 6月11日、産学官が連携の「北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会【第1回石川県部会】」を開催し、各機関によるこれまでの取り組みと今年度計画されている現場見学会や就職説明会等の活動予定について紹介、さらに現状の課題等に関する意見交換を行いました。
- 参加機関からは、「離職してしまう理由としては職場の中で同世代がいないことによるコミュニケーションの問題が大きい」「新技術の導入により“この業界には明るい未来がある”ということを現場見学会などを通じて示すことが重要」といった様々な課題、意見が寄せられました。

開催概要

【日時】平成30年6月11日（月）10:00～11:45

【開催地】金沢河川国道事務所 会議室

【構成機関】

【行政】北陸地整建政部、金沢河川国道事務所、石川労働局、石川県土木部、石川県教育委員会

【建設産業】日建連北陸支部、石川県建設業協会、道建協北陸支部、建設コンサルタツ協会北陸支部、石川県測量設計業協会、石川県地質業協会

【教育】金沢大学、金沢工業大学、石川県立大学、石川高専、金沢市工高、石川県立羽咋工高、小松工高、翠星高校

会議の主な発言要旨

- ◆ せっかくこの業界に入っても3年で3～5割が離職してしまうといわれる。離職の原因としてはコミュニケーションの問題が大きい。同世代の先輩がいないため相談もできず孤立化し離れていく。これには官公庁からの工事発注を継続的に行うことで、企業側も継続的・計画的に採用可能となる。5年経ったらこの先輩のようになっている、と自分の姿のイメージを見せられることが重要。
- ◆ 学生・生徒を対象とした現場見学会では、漠然と現場見学に行くことのないよう、その現場で何を見せたいか、見どころを明確にして説明するようしてもらいたい。
- ◆ 建設系の学科を選択してもらうためには保護者の理解が大きく、そのためにも“この業界には明るい未来がある”ということをアピールすることが重要である。i-constructionの推進など建設界が新しい技術をいち早く取り入れて見せる。今までの3kの改善ということも大切ではあるが、この業界には夢があると魅力を示すことが重要。

開催状況

